



TITLE:

第51回物性若手夏の学校 : 2006年度

AUTHOR(S):

下元, 正義

CITATION:

下元, 正義. 第51回物性若手夏の学校 : 2006年度. 物性研究 2007, 87(5): 631-631

ISSUE DATE:

2007-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/110773>

RIGHT:

講義ノート

第51回 物性若手夏の学校 (2006年度)

第51回物性若手夏の学校は8月1日～8月5日の愛知県蒲郡市西浦温泉にあるホテルたつきで行われ、約200名の若手研究者が参加しました。

例年山がちなところで行われてきた夏の学校ですが、海のそばというのも'暑い夏'らしさを感じられて良かったと思います。

物性若手夏の学校では多岐にわたる研究分野に属する若手研究者が集まり、共に学び、議論や研究発表、懇親会で交流を深めます。このような機会というのは夏の学校以外では得難いものだと思います。

今回の夏の学校は、研究発表の場としての夏の学校に重点を置き、発表企画の時間を多くしたり、博士課程以上の研究者を対象に招待講演を企画しました。様々な研究分野の話題に触れることができ参加者にとっては大いに刺激になったと思います。

また、お招きした先生方には大変刺激的な講義をしていただきました。食事のときや夜の懇親会では学生たちの輪に加わっていただきました。夏の学校で講師を務めてくださった先生方に大変ご多忙なかにもかかわらず執筆していただいたテキストを講義ノートとして物性研究に掲載させていただくこととなりました。この場を借りて講師の方々に御礼申し上げます。様々な分野の話題を含んでおり、おもに大学院初年度の学生に向けて書かれたものであるので、たいへんわかりやすく書かれていると思います。多くの若手研究者の方々に役立ててもらえれば幸いです。

夏の学校は完全に有志の学生の手で運営されています。こうした企画の運営をとおしてさまざまな貴重な経験をすることができました。次回の夏の学校のために多くの有志の学生がスタッフとして集まり、準備を進めている頃だと思います。来年度の夏の学校が素晴らしいものになることを願っています。

最後になりましたが、夏の学校のような素晴らしい機会を若手研究者に提供するにあたって、多大な支援して下さった京都大学基礎物理学研究所、東京大学物性研究所、東北大学金属材料研究所、材料科学技術振興財団、そして企業の方々に感謝いたします。

第51回 物性若手夏の学校代表
下元 正義